

## 『神奈川県大正二年大正三年「ペスト」流行誌』

神奈川県警察部衛生課 [編]

神奈川県警察部衛生課刊 / 1915年3月 / 27cm / 320頁 / 図書番号 0D-0039

---

本書第1章ではペストの流行状況を概観する。日本では、1899年に神戸市で初めてペスト患者が発生して以来、1913年までの約15年間に、22府県で2,000人を超える死者を出していた。神奈川県では1902年、1903年、1907年、1909年の4回の流行があった。

第2章は、神奈川県で5回目となる1913・1914年の流行について概説する。過去4回の流行では、患者は横浜市に局在していたが、今回の流行では郡部（橘樹郡保土ヶ谷村・川崎町・田島村・高座郡大野村）にも患者が多数発生し、患者総数45名中23名を占めた。ペストの流行経路については、横浜市内と郡部では異なると考えられている。市内の患者は、職業柄横浜税関及びその関係倉庫と接点があったとみられる壯年男性がほとんどである。郡部へは、当時ペストが流行していた東京方面から搬入された米穀等とともにペスト菌や有菌鼠が侵入したとみられ、患者の多くは農業者である。流行の終息まで約1年と長かったことも、特徴として挙げられている。

第3章と第4章では、ペスト菌の媒介となる鼠の駆除状況と鼠に関する各種試験、調査結果をまとめた。今回の流行に当たっては、横浜市の約8万戸に、従来の殺鼠剤（亜ヒ酸製剤）に加え新製の燐製剤が配付され、高い除鼠効果を生んだ。

第5章は、県が行った防疫、検疫措置について述べる。健康視察や屍体検案等の統計類、横浜市内のペスト患者全22名の住宅及び附近略図（業種、消毒範囲、鼠の捕獲数等を記入）等のほか、横浜市で配付された『ペスト予防の注意』と『ペスト予防手鞠歌』、橘樹郡川崎町の民間会社が職工の自衛的思想を鼓舞するために配布した『ペスト予防心得』を紹介する。

第6章では症状および治療成績を説明する。今回の流行では、患者全45名中37名が死亡した。郡部で伝染力が強い肺ペストが発生したこともあるが、初期に適切な処置を施せば比較的治癒の望みがある腺ペストでさえ、医師による診察が遅れたために死亡する患者が多く、治療成績は良好ではないとする。また、病床日誌として市内の患者10名、郡部の患者1名の病状経過等の詳細が記される。

第7章では、県の細菌学的試験及び科学的検査の設備を紹介する。1899年に大阪、神戸地方でペストが流行した際、急きょ県庁内の一室に細菌室を設備して以来改良を重ね、1913年には2つの衛生試験場を備えていた。今回のペスト流行時には、防疫官補等を増員して対応に当たり、また、消毒薬や殺鼠剤の調査研究を行った。

第8章は、船舶に対する検疫事務の記録である。伝染病予防のため、1884年より横浜入港の船舶に対し検疫を行ってきたが、今回のペスト流行に際しても捕鼠隊を組織する等迅速に対応した。船舶検疫表等の各種海港検疫統計も掲載される。

第9章は、当時神奈川県と前後してペストが発生していた兵庫県、東京府、千葉県に、流行状態や防疫状況を視察するために派遣された防疫官等の復命書の抄録である。

第10章には、1902年度から1914年度までの防疫費額一覧表と、ペスト予防等に関する令達及び通牒の抜粋を掲載する。

（山野辺香葉・市政専門図書館司書主任）